

略 語 集

CLIVAR (Climate Variability and Predictability)

気候の変動性とその予測可能性に関する研究計画
世界気候研究計画 (WCRP) のプロジェクトの 1 つ。気候変動の調査、1 か月から 10 年の時間スケールにおける予測可能性及び人類の活動に起因する気候システムへの影響を研究することを目的として、1995 年に開始された研究計画。

GAW (Global Atmosphere Watch)

全球大気監視
温室効果ガス、オゾン層、エアロゾル、酸性雨等地球環境に関わる大気成分について、地球規模で高精度に観測し、科学的な情報を提供することを目的に、世界気象機関 (WMO) が 1989 年に開始した国際観測計画。

GCOS (Global Climate Observing System)

全球気候観測システム
世界気象機関 (WMO)、ユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC)、国際科学会議 (ICSU) 及び国連環境計画 (UNEP) が連携して推進している、気候観測に関する国際的な枠組み。大気、海洋、陸面及び生物圏の気候系全体を対象とした総合的な観測システムの構築を目指している。

GIS (Geographic Information System)

地理情報システム
デジタル化された地図 (地形) データと、各種の統計データや特定の場所が持つ属性情報などの地図に関連したデータとを、統合的に扱う情報システム。地図データと他のデータを相互に関連づけたデータベースと、それらの情報の検索や解析、表示などを行なうソフトウェアから構成される。

GLOSS (Global Sea Level Observing System)

全球海面水位観測システム
1985 年からユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC) が推進している全球的な海面水位監視ネットワーク。全世界で約 300 の検潮所が登録されており、それらの検潮所で得られた海面水位データは、海面水位の長期変動監視や海洋研究等の目的で利用されている。

GODAE (Global Ocean Data Assimilation Experiment)

全球海洋データ同化実験
世界気象機関 (WMO)、ユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC) によって推進されているプロジェクト。衛星、ブイ、ARGO 計画のフロートなどのデータを、大気海洋結合モデルに同化し、全球の海洋を表現することを目指す。

GOOS (Global Ocean Observing System)

全球海洋観測システム

全世界の海洋の環境や変動を監視してその予測を可能にするための長期的で系統的な海洋観測システムを構築する国際的な計画。ユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)、世界気象機関(WMO)等が共同で推進している。

GPS (Global Positioning System)

全球測位システム

衛星を用いて位置を決定するシステムで、一般にはカーナビゲーションシステムへの利用で馴染み深い。高い精度での位置決定が可能な GPS を用いることにより、地殻変動などを観測することが可能である。

IGOS (Integrated Global Observing Strategy)

統合地球観測戦略

世界気象機関(WMO)、ユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)、国際科学会議(ICSU)、地球観測衛星委員会(CEOS)など、多くの国際機関が連携して推進している、地球観測における国際的な協力体制の枠組み。地球環境観測のために必要な地上観測システムと衛星システムとを統合した戦略的な計画を策定する機能を持つ。

IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change)

気候変動に関する政府間パネル

世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)により、1988年に設立された。各国の科学者及び専門家で組織され、気候変動の(1)科学的評価、(2)影響・適応策の評価、(3)緩和策の社会的・経済的側面の評価を行い報告書を取りまとめている。

JCOMM (WMO/IOC Joint Committee for Oceanography and Marine Meteorology)

WMO/IOC 合同海洋・海上気象専門委員会

世界気象機関(WMO)、ユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)が共同して、海洋観測及び海洋気象サービスのより一層の推進を図るために設置した委員会。海洋観測計画やデータ管理等について、国際的な調整機能を持つ。

QA/SAC (Quality Assurance/Science Activity Centre)

品質保証科学センター

WMO/GAW 計画の一環として、世界各地の温室効果ガス、オゾンなどの観測精度の維持向上を目指して、各地域内の観測所の訪問指導、研修実施等を行うために置かれた地域センター。気象庁は、アジア・オセアニア地域を対象としたセンターとして、1995(平成7)年からこれまでに、中国、インドネシアなどの観測所の訪問、研修生の受入れを実施している。

WCC (World Calibration Centre)

全球大気監視較正センター

WMO/GAW 計画の一環として、世界各地の温室効果ガス、オゾンなどの観測精度の維持向上を目指して、各地域内の観測基準の統一のための測器の国際比較観測、標準

ガス巡回比較観測などを実施するために置かれた地域センター。気象庁は、2002（平成14）年から、温室効果ガスのうちメタン（アジア及びオセアニア）、オゾン全量（アジア）を対象としてセンター業務を実施している。

WDCGG（World Data Centre for Greenhouse Gases）

温室効果ガス世界資料センター

WMO/GAW 計画の一環として、世界中の観測データを要素別に一元的に収集・管理・解析するために設置されたデータセンターの1つで、温室効果ガスについてのセンター。気象庁が、1990（平成2）年から運用しており、全世界の温室効果ガスや関連ガスを収集し、印刷物や電子媒体（CD-ROM）・インターネットなどにより世界各国の利用者に提供している。

WMO（World Meteorological Organization）

世界気象機関

世界の気象事業の調和的発展を目標とした国際計画の推進・調整を行うため、昭和25年（1950年）に世界気象機関条約に基づいて設立され、翌昭和26年（1951年）に国際連合の専門機関となった。平成14年（2002年）3月現在、179か国と6領域が構成員として加盟している（日本は昭和28年（1953年）に加盟）。事務局本部はスイスのジュネーブに置かれている。

アルゴ計画

国際的な枠組みの中で「中層フロート」と呼ばれる機器を全世界の海洋に約3,000個展開して、海面から水深2000m程度までの表層から中層の水温、塩分等の観測をする計画。気候に大きく影響する海洋の状況をリアルタイムで把握する。アルゴ（ARGO）とはギリシャ神話に出てくる船の名前（Argo）にちなんだもの。

以上